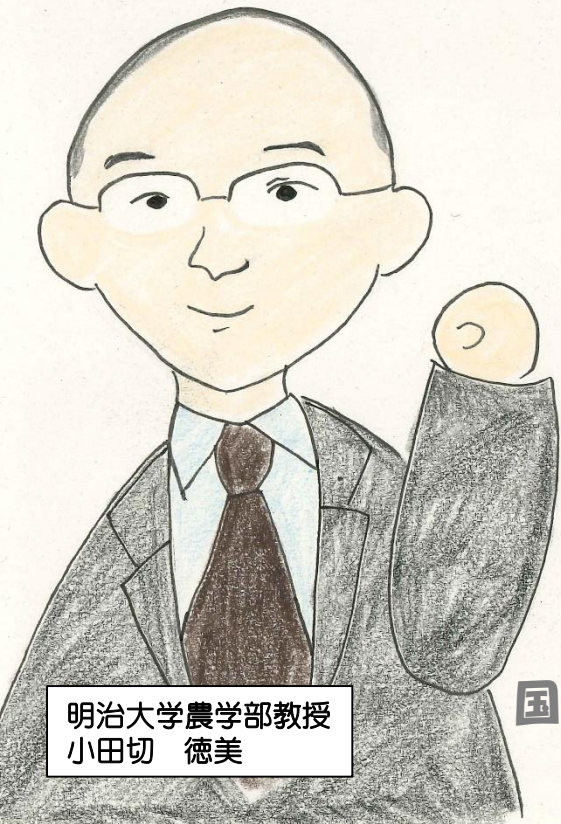


突撃レポート！

国土交通省シンポジウム

「関係人口とつくる地域の未来」



明治大学農学部教授
小田切 徳美

国土交通省国土政策局
総合計画課



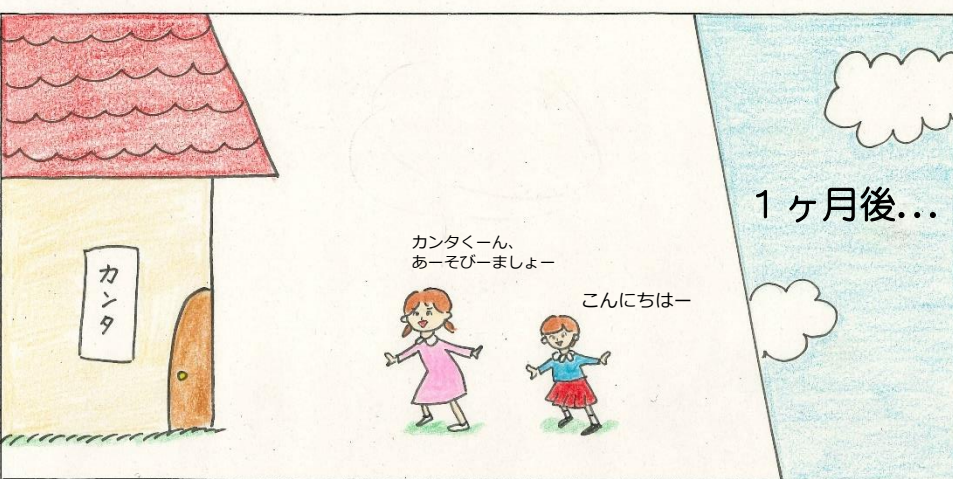
リコ



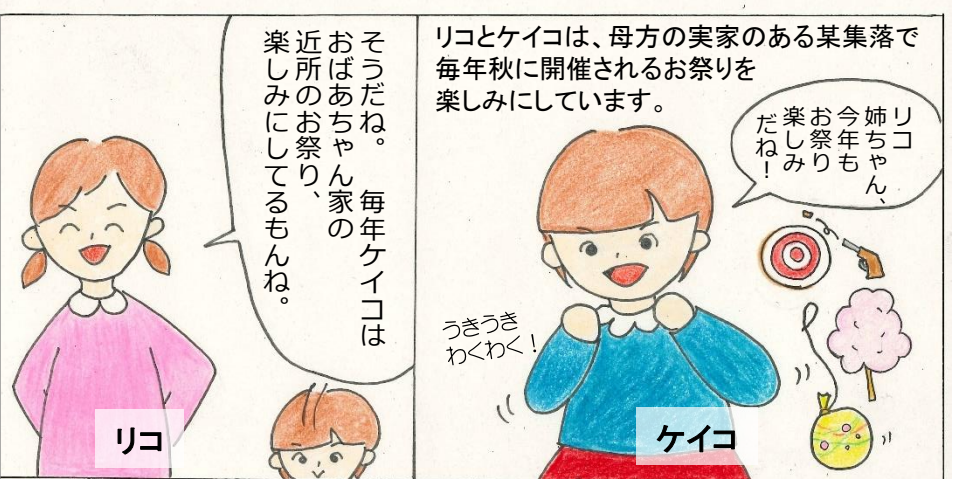
ケイコ



カンタ



1ヶ月後...

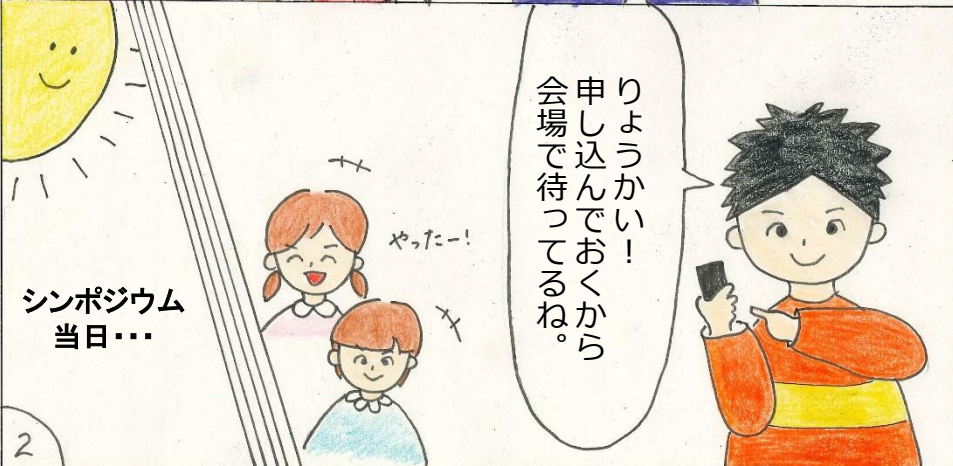
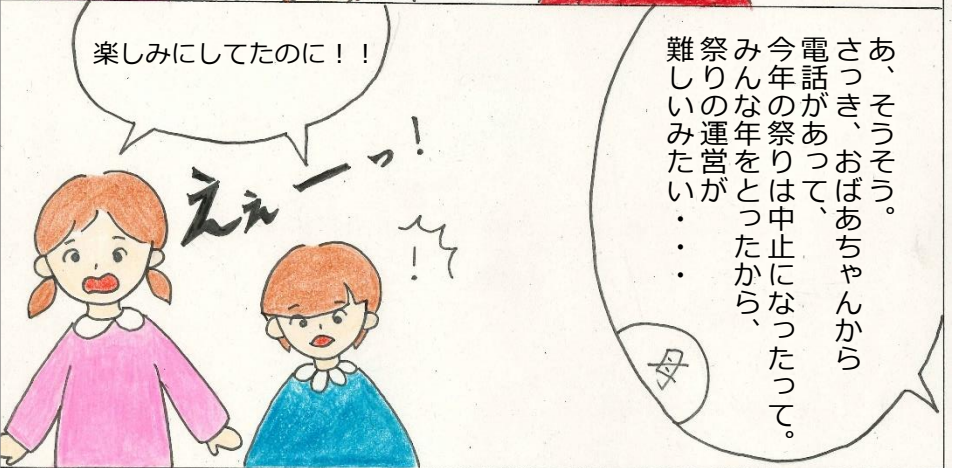


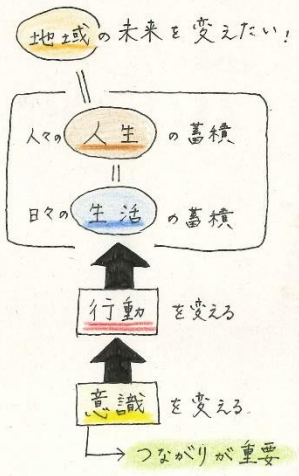
リコ

ケイコ



カンタ





特別講演
「コミュニティデザインと活動人口」

地域が関係人口の方々とういう関係を具体的に結びたいのか、そのためのアイデアを地域が持っているのか。そこが問われるのだと思います。

studio-L 代表
山崎 亮

関係人口の新傾向をまとめると次の3点のようになります。

- 基調講演①**
「関係人口の新傾向」
- ① 「関係案内所」が各地域に増加
 - ② 流域でつながるような「おしゃれな広域連携」
 - ③ 関係人口という感覚がある人は総じて「SDGs的」

今日はメカネです!

ソントコト 編集長
指出 一正

こんにちは。来てくれてありがとう! 今年はリコちゃんも来てくれたんだね。

明治大学農学部 教授
小田切 徳美

カンタとリコ、ケイコは、シンポジウム「関係人口とつくる地域の未来」の会場にやってきました。

今年も私も勉強させてください!

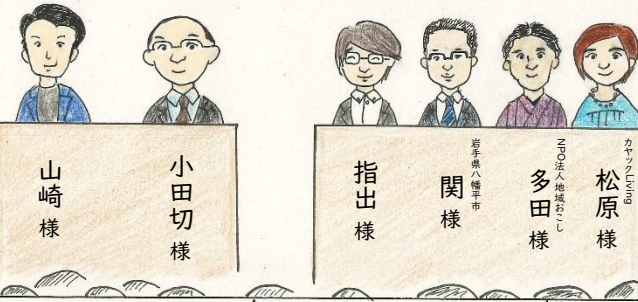
はい! 今年もよろしくお願いします!

あ、始まるね!

去年の倍くらいの参加者ですね。それだけ「関係人口」の関心が全国的に高まっているんですね!

すっかりと聞いて帰ってください。今年も400人ほど参加する予定なんだよ。

～パネルディスカッション～

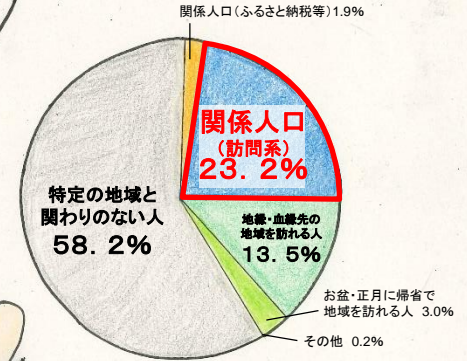


次は、いよいよ
パネルディスカッションだね。

ごくり...

三大都市圏には、
特定の地域を
訪問している
「関係人口」が
約1000万人以上
存在しています。
それらの方々は、
様々な地域と
多様な関わりを
しています。

基調講演②
「国土交通省
アンケートから見る
関係人口」



実人数換算では100万人以上！

※「地域との関わりについてのアンケート」(国土交通省、令和元年9月実施)

明治大学農学部 教授
小田切 徳美

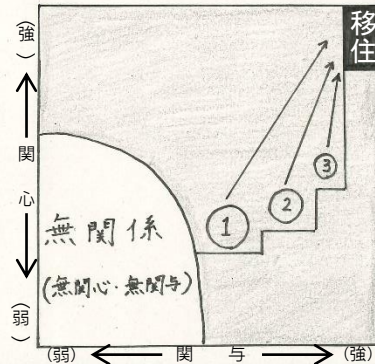
「活動人口」については、
地域内活動人口という
枠の中で考えています。
地域内活動人口にも
いろいろなタイプの関わりの
深度があり、地域の人を含め、
プロジェクト運営や、参加して
応援する人たちを活動人口と
呼んでいます。

まず、
はじめに、
「関係人口」と
「活動人口」の
関係に
ついてです。
ここは、
山崎さんの
出番です。



より実態を
反映すれば...

「関わりの階段」の
見直しが必要です！
関係人口のすべてが
移住するというわけでは
ありませんが、
ファーストステップから
直接移住するという
可能性も
見えてきました。

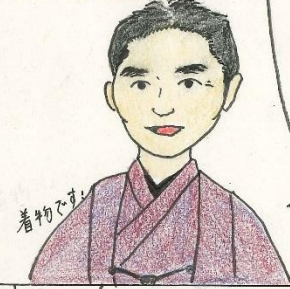


地域全体が
関係案内所に
機能する
可能性も
ありますよ！

人と人のつながりを
案内する場所が求められています。
いろいろな人がやってくる環境、
きっかけが保たれる
空間や時間があるところが
関係案内所の定義です。

なるほど。
地域に住んでいる
人を含めて
活動人口
なのです。
次に、
関係案内所について
指出さんに説明して
いただきますよ。

表面的に地域に来るだけでなく、
地域の人と個人的なつながりを
つくっていくことが関係案内所に
求められる役割だと思います。



ゆるやかな関係を築き、
地域の関係案内所へ呼び込むという、
移住や関係人口に興味がない層を
引きつけることが
インターネットにはできません！

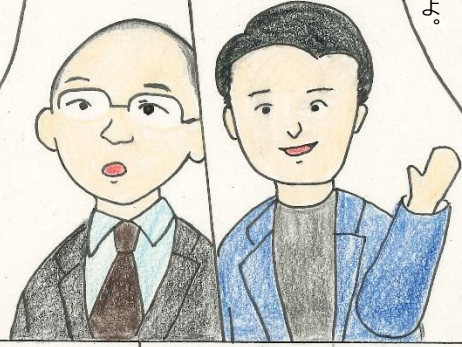
ISMOUT



そう思いますね。
地域の魅力というのは
人の魅力がかなり大きい。
活動人口が多い地域は
魅力があり、人の魅力です。
その人と一緒に
何かやりたいと思うから
移住に結び
つくんですよ。

人と人の関係性が
大切だということですね。

活動人口が重要だと
いうことですが、
活動人口は具体的に
どんなタイプの
人なのでしょう？



つながりを
サポート
することが
全国レベルでも
必要という
ことですね



関係人口と
移住の関係について、
いかがでしょうか。

地域のことを考える人たちが増える
ことを目指しているので、
移住がゴールというわけでも
ないんです。
移住前のゆりかごのような状態として、
関係人口がはぐくまれるための
間(あわい)的な場所が必要なのです。

あわい
問
物と物のあいだ。
事と事の時間的なあいだ。



自分たちの
興味で集まって
楽しみながら、
それだけでは
飽き足らず、
ちよつとだけ
地域から
感謝されることを
行つ人たちが
これが
活動人口の
理想形
なんじゃないかな。



活動人口
というのは、
自分たちで
面白いな、
おしゃれだな、
かっこいいな、
笑えるな、
というものを
自発的に
できる人たち、
そういう集団
みたいなもの
なかなと思
います。

移住を前提としないが、
結果としての移住は
ありうる
ということですね。
関係人口の仕組みを
きちんと構築するには
受け入れ側の
体制整備が必須ですが、
これも指図さんから
いただけますでしょうか。



いい質問ですね。
これが濃淡を
分けています。



人間は自分以外に
興味はなく、
人のことや
地域のことは
ほとんど知りません。
なので、
地域でちゃんと
迎え入れてくれる
人の存在は
ものすごく必要です。
そういった地域は、
活動人口が
多い地域です。



パネルディスカッションをまとめると、
①地域には関係案内所という
場が必要
②関係人口と
地域を結びつけるには
活動人口が重要であること
③関係人口には
新たな潮流がでていること
だと思えます。
今なお発展・成長している概念です。
この言葉を大切にしていきたいですね。



ありがとうございました！

今回のシンポジウムもとても勉強になったね！

後半のパネルディスカッションは、少し難しかったね。

そうだね。

関係人口は、移住しなくても地域の魅力が味わえたり、活動によって満足感を得ることができる。

WIN-WIN!



それに、地域は、地域づくりと一緒に行える仲間を得ることができる。Win-winな関係づくりが大切だね。

関係人口は、都会の人が田舎に関わっているイメージだけど、意外にも近場の都市部に関わっている人が多いんだね。



「地域内関係人口」のことだね。そんな人たちも含めて、いろんな人が存在するのが関係人口なのかな。

自分の地域を見つめ直し、どんな課題があつて、どう関係人口と関わっていききたいかを地域も考えることが必要だね。

地域の課題かー... 難しいよね。

あ!!

そうだね。小田切先生もそう言ってたね。多様性が関係人口の魅力だと思うな。

多様性

みんな違ってもいい!

都会の人にとつても地域との関わりを深めることは、悪いことじゃないと思うんだ。自分の住んでいる地域を含めて、地域と関わっていくことが重要だと思う。

おばあちゃん家の近所の祭りが中止になったことも、地域の課題なのかな。

おばあちゃんの住んでいる地域を訪れる関係人口が増えれば、祭りが再開できるかも!

そのためにはどうしたらいいかなあ?

話は尽きないのでした。

おしまい

本編「マンガでわかる！国土管理～カンタとリコの訪問記」の
[Facebookページ](#)も開設しています。
マンガの新作をアップしていく予定です。

たくさんの皆様の「いいね！」をお待ちしています！

○ Facebookページはこちらです。

<https://www.facebook.com/mlit.kokudokanri/>



Facebookページに
リンクします

○ 国土交通省HPにも掲載しています。

http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku_tk3_000096.html

